

# 宗教法人 カトリック札幌司教区

CATHOLIC BISHOP'S RESIDENCE  
10 HIGASHI 6 CHOME KITA 1 JO  
CHUO-KU, SAPPORO, 060-0031 JAPAN  
221-3668



カトリック札幌司教館  
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10  
TEL 011-241-2785 FAX

2012年3月20日

主任司祭各位  
教会運営委員長・大震災被災者支援ご担当各位  
修道院々長各位 施設長各位

札幌教区サポートセンター  
ボランティア担当司祭 上杉昌弘

## 東日本大震災被災地支援ボランティア募集要項 (2012年4月1日改訂版) の送付について

被災地でのボランティア活動も2年目に入ります。これまで信者の方を中心に300人を超える方々の御協力により被災者に寄り添って活動することができたことを、あらためて心より皆様に感謝申し上げます。

今日は、2012年4月1日改訂版の募集要項を送らせて頂きますので、教会などでの掲示などをお願いいたします。以前のものとこれとを取り換えていただき、また申込用紙といっしょに10枚ほどコピーして、希望する方が持参していただけるように掲示板近くに置いていただけると幸いです。

札幌教区として2011年4月11日から、被災地である岩手県宮古市やその周辺で行っているボランティア活動は、東日本大震災で被災された方々の様々なニーズに応じるため、被災地の社会福祉協議会や自治会、地元のカトリック教会と連携して行っています。こうしたボランティア活動を含む支援活動全般は、札幌教区サポートセンター（札幌司教館に置く）が統括し、仙台教区サポートセンター（本部長：平賀司教、カリタスジャパンが協力）や、全国16教区で連携して行っています。大震災から一年がたちましたが、今後も被災地の人々に寄り添いながら活動を続けてまいりたいと思います。

募集要項には宮古ベースでの生活の概要、活動内容、また参加者への交通費援助などについて説明しておりますのでご覧下さい。皆様のご参加を心よりお願い申し上げます。

### 登録から出発までの大まかな流れ（例）

- ①「ボランティアに行こうと思い立ったら」（よく分からないことがあっても）⇒
- ②「札幌サポートセンターに登録のFaxをする」（いつ頃希望かでもOKです）⇒
- ③「サポートセンターから電話がくる」（心配な事、分からない事に答えます）⇒
- ④「行くことを決める！参加日程も決まる」⇒
- ⑤「出発にあたってのマニュアルがお手元に届きます」

# 東日本大震災被災地支援ボランティア募集要項

(2012年4月1日改訂版)



## ■登録申込方法

申込・登録書は、小教区・修道院に送ってある用紙を利用頂くか、司教区Webページ(www.csd.or.jp)からも印刷することができます。

- ① FAXの場合は、別紙申込書にて必要事項を記入して頂き011-221-3668へ送ってください。
- ② E-mailの場合は、申込・登録書の内容を記入して頂きofficecsd@csd.or.jpへ送ってください。
- ③ 郵送の場合は、必要事項を記載した申込・登録書を〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10カトリック札幌司教館に送ってください。
- ④ できるだけ、参加希望期間の1週間以上前にサポートセンターに届くように送ってください。

## ■活動内容

- ① 現段階では宮古市内仮設住宅での移動カフェとサロンの開催が主な活動です。  
仮設住宅へのチラシ配布・物品運搬・会場設営・飲み物等の準備・話し相手・住民ニーズへの対応・後片付けなどです。
- ② わかちあいマーケットの準備や実施。その他、必要に応じた活動を行います。
- ③ 隣の大槌ベース(ボランティア活動の拠点)では、まだ瓦礫片付けが必要とされる週もありますので、こうした活動を希望される場合は登録票に書き添えてください。宮古を通じて大槌での活動が可能な場合があります。

## ■活動場所

宮古市内仮設住宅(宮古市社会福祉協議会の指示による)が主な活動場所ですが、必要に応じて近隣市町なども含まれます。

## ■活動期間

派遣調整のため1週間単位での参加を原則とさせていただきます。

(例えば、八戸港からの送迎車を利用する場合、行きは木曜日夜に札幌を出発し、苫小牧西港発のフェリーを利用して、翌日の昼頃に宮古に到着。帰りは、翌週木曜日の夕方に宮古を出発して金曜日の朝に札幌着のスケジュールになります。アクセスの項目も参照して下さい。)但し、1週間以上でも可能な場合がありますので、宮古ベース責任者や札幌教区サポートセンターにご相談ください。

## ■生活環境

宿 泊：女性ボランティアは宮古教会に宿泊。男性ボランティアは宮古教会から車で10分位にある仮設住宅。

ベッドはありませんが布団・毛布類は用意してあります。

風 呂：近くにある銭湯を利用します。男性の宿泊先施設は風呂があり利用可能です。

食 事：食材を現地で調達し協同自炊が原則です。(食材費は一日600円前後の自己負担となります。現地にてお支払いください。)

洗 濯：近くにコインランドリーがありますが、汚れてよい衣服があると便利です。男性宿泊施設には洗濯機があり利用できます。

その他：銭湯や買い物、男性宿泊場所には車でいきます。

## ■持ち物

着替え、その他各自が必要な用品、シーツ2枚(敷布団のシーツと掛け布団等の内カバーに使用)、健康保険証、認印など。

## ■ボランティア保険

社会福祉協議会ボランティア活動保険に、札幌教区サポートセンターで加入します。

## ■交通費への補助

- ① 宮古ベースまでの交通費は、1万円を自己負担して頂き、その額を超える分に関して札幌教区サポートセンターから補助致します。但し、交通費算定の交通手段は当センターの基準によって算定させていただきます。
- ② 交通費の請求は、宮古ベース責任者に所定の用紙にて本人が請求し、本人が受け取ってください。(受領時に認印が必要となりますのでご持参ください。)
- ③ 交通費の補助は申告制をとらせていただきます。ご本人から請求がない場合や、後日請求の場合は補助致しかねますのでご注意ください。その際は、ご自身で交通費を負担なされたことに感謝して、その分を有効に活用させていただきます。

## ■アクセス

- ① 登録され参加が決定された方とは交通手段などについて電話などで打ち合わせ致します。
- ② 冬期以外の期間は、原則、苫小牧西港まで各自で行っていただき、フェリーにて八戸港まで行って頂ければ、八戸港からは教区ワゴン車で宮古までお連れ致します。
- ③ フェリーでの移動が時間的などで不可能な場合は、JR等で各自宮古までお願いします。
  - ◇JR：盛岡から宮古市まで所要時間2時間。
  - ◇バス：盛岡駅前から日に10本ほど。岩手県北バス(TEL 019-654-5811)
  - ◇フェリー：苫小牧西港―八戸港の便。所要時間7～9時間ほど。川崎汽船(TEL 011-241-8268)。
  - ◇車：宮古教会の駐車場スペースは車2台分ほどしかありませんのでご遠慮ください。
  - ◇カトリック宮古教会へは、宮古駅(バスも駅前発着)から徒歩5分ほどです。  
カトリック宮古教会(宮古市宮町1-2-14、電話0193-62-3043)
- ④ 冬期は安全上のため、公共交通機関を利用して宮古へ行くことになります。

## ■その他の留意事項

- ① 各自で十分な体調管理をしてください。体調が不良の場合は無理せずに現地の責任者に伝えてお休みください。戻ってからまたボランティアをしたいと思えるように、心身の健康に配慮してください。
- ② ボランティア活動から帰った後で、体験の報告や他の人との分かち合いを通して、ボランティアに参加したいと思う人が増えるようにご協力ください。

### 札幌教区サポートセンター

〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 カトリック札幌司教館  
電話 011-241-2785 FAX 011-221-3668 E-mail: officecsd@csd.or.jp  
お問合せ時間 9:30～16:30(土・日・祝日は除きます)